

ヒト受精胚にゲノム編集技術等を用いる研究についての、これまでの検討状況

3月29日 第37回 総合科学技術・イノベーション会議

「ヒト胚の取扱いに関する基本的考え方」見直し等に係る報告（第一次）～生殖補助医療研究を目的とするゲノム編集技術等の利用について～

5月14日 第108回 生命倫理専門調査会及び第7回 タスク・フォースの合同開催

今後の検討方針を議論

6月25日 第109回 生命倫理専門調査会及び第8回 タスク・フォースの合同開催

ヒアリング：

- 1)石井哲也 北海道大学安全衛生本部教授 「ヒト生殖細胞系列遺伝的改変」の規制
- 2)山田満稔 慶應義塾大学医学部助教 「ヒト胚(受精卵)を用いた臨床と研究の現状」
- 3)阿久津英憲 国立成育医療研究センター研究所 生殖医療研究部長

「ヒトES/iPS細胞を用いた疾患研究について」

論点についての検討

7月27日 第110回 生命倫理専門調査会及び第9回 タスク・フォースの合同開催

ヒアリング：

- 1)松原洋一 国立成育医療研究センター研究所長 「遺伝性難病の研究・診療の立場から」
- 2)伊藤たてお 日本難病・疾病団体協議会理事会参与 「科学技術は社会を発展させるが社会の状況によっては人類の幸福を大きく左右する」

論点についての検討

8月30日 第111回 生命倫理専門調査会及び第10回 タスク・フォースの合同開催

論点についての取りまとめ

9月28日 第112回 生命倫理専門調査会及び第11回 タスク・フォースの合同開催

文部科学省・厚生労働省 「ヒト受精胚へのゲノム編集技術等を用いる研究に関する指針の検討状況について」

論点についての取りまとめ

合同会議でとりまとめられた論点について、タスク・フォースにおいて検討を開始

10月22日 第12回 タスク・フォース

ヒアリング：飯野正光 日本医学会副会長 研究例中間報告

論点に基づく第1回目の検討